

## COG2025 応募内容確認書

ID	2-1-2
自治体名	北海道室蘭市
自治体提示地域課題	「室蘭が好き。」を増やして、みんなで住み続けたいマチを創る
チーム名	あんだんて
アイデア名	アートで知ろう！室蘭市の魅力発見プロジェクト
チーム属性	学生：学生（ ）だけで構成されたチーム
チームメンバー数	2
代表者	齊藤 愛香
メンバー（公開）	齊藤 愛香, 南 志緒里

### 【確認事項】

- < 応募のPDFファイル名と送付先 > 確認しました。
- < 応募内容の公開 > 確認しました。
- < 知的所有権・肖像権 > 確認しました。問題ありません。

# 基本情報

チーム名：あんだんて

アイデア名：アートで知ろう！室蘭市の魅力発見プロジェクト

該当する自治体名：室蘭市

自治体提示の地域課題：「室蘭が好き。」を増やして、みんなで住み続けたい  
マチを創る

# 「アートで知ろう！室蘭市の魅力発見プロジェクト」

## 本取り組みの概要

町内会を含む官・民・学が連携し、室蘭アートプロジェクト(通称MAP)を盛り上げることで、室蘭の子どもたちの「室蘭が好き」という気持ちを育み、将来的なUターンの増加を目指します。さらに、「室蘭とのつながり」を創出し、住み続けたいと感じるまちづくりを推進します。この「つながり」を生み出すため、以下の2つの軸を設定し、さまざまな活動を展開します。

### 軸① 町内会との連携

- 毎年開催されるMAPを活用し、官・民・学の協力によって「住み続けたいまちづくり」や「子どもたちに室蘭を好きになってもらうまちづくり」を推進する。
- 町内会をMAP運営のパートナーとして位置づけ、以下の取り組みを実施する。
  - ワークショップの会場として町内会館を活用
  - MAP運営ボランティアの募集を町内会を通じて広く告知し、工大生以外の参加も促進
  - 町内会長の集まりなどでMAPや活動内容を周知し、地域全体の参加意識を高める

### 軸② ワークショップの開催

- 「ものの見方の違いを知る」ことで、室蘭の魅力や芸術鑑賞の楽しさを再発見してもらう。
- WSを通じて地域内で「人と人とのつながり」を生み出し、特に子育て世代やママ友同士など、交流を求める層に機会を提供する。
- 地域への帰属意識を醸成し、結果として町内会加入率や地域参加意識の向上につなげる。

## 具体的な活動内容

### 1. アート × コミュニケーション

#### a. コラージュノート作り

2025年9月、MAP内のワークショップとして、提案者の齊藤と南で開催しました。MAP参加アーティストの過去作品の写真を素材にスクラッチブックを制作しました。同じ素材を使っても、制作者によって全く異なる雰囲気の商品が生まれ、「同じものでも人によって感じ方や見え方が異なる」ことを実感できる企画となりました。

#### b. 対話型鑑賞

オンライン開催時には、以下のような感想が寄せられました。

「初めてやったけど、同じ絵を見ても人によって全然逆のことを感じていて面白かった。」  
「同じところに着目していても違う価値観から違う解釈が生じていく過程とかその出力結果が毎回興味深すぎる。」

「少し苦手意識があった芸術鑑賞が面白いと感じられました！」

このことから、「ものの見方の違いを知る」ために対話型鑑賞は有用であると考えています。

#### c. 室蘭市有志のボランティア

MAP運営には毎年ボランティアが欠かせませんが、現在は室蘭工業大学の学生が中心で、やや内輪感があります。室蘭市内にはほかにも北海道室蘭工業高校、市立室蘭看護専門学院など多くの学校があるため、各校に声をかけ、幅広い若者が参加できる仕組みをつくり、地域交流の機会を広げます。

### 2. アート × 防災

#### a. 非常食関連企画

##### パッケージリデザイン

室蘭の子どもたちからデザインを募集し、非常食にもなる「うずら園すうぶかかれー」の限定パッケージを製造。製品はMAPや市内のお土産店、スーパー、工大祭などで販売し、利益はMAP運営費に充当します。

##### パッケージデコレーション

賞味期限間近や切れた製品を格安提供いただき、外箱にペンなどでオリジナルデコレーションを施します。持ち帰った後は非常食を実際に食べる体験も提供します。

b. キャンドル作り

非常時にも使えるキャンドルを、好きな色や香りを組み合わせて制作。完成したキャンドルを使ってキャンドルサービスを開催します。

3. アート × 防災 × 町内会

a. 避難所の看板作り

避難誘導標識とは別に、町内会ごとに子どもたちと看板を制作し、その場所が避難所であることを意識する取り組みとします。

b. 町内会館を展示会場に

町内会館をMAPの展示会場として活用し、訪問のきっかけをつくります。

4. その他

a. 町内会ごとの出展

MAP期間中には、公園などでキッチンカーやワークショップが集まる地域イベントが開催されています。そこで、町内会ごとに縁日や屋台を出展してもらい、町内会としての一体感や町内会を超えた交流を生みます。

b. 工大関係者の出展

室蘭工業大学の先生方やサークルなど、地域と関わる活動をしている方々に出展を依頼し、官・民・学の協力を強化します。

## 提案理由

### なぜ「つながり」なのか？

提案者の齊藤は現在室蘭で一人暮らしをしており、日常の中で人から挨拶をされるだけでも「今日も頑張ろう」という励みになることを実感しています。また、イベント運営を通じて新しい知り合いが増え、コミュニティが広がる経験をしました。

こうした「つながり」は、日々の張り合いや心身の健康に直結することを強く感じています。このことから、人とのつながりを生み出すことが、住み続けたい街づくりの第一歩になると考えました。

---

### なぜ「町内会」なのか？

現在、室蘭市では町内会の加入率低下が課題となっています。日常生活では町内会に未加入でも不便を感じにくいことが一因ですが、災害時には町内会の存在が不可欠です。

実際、2025年7月に津波警報が発令された際、市内の多くの町内会館が避難所として開放されました。避難所運営や備蓄品管理を担うのは地域の自治組織である町内会です。未加入者が増え、想定を超える避難者が集まれば、備蓄品不足による混乱が起こりかねません。

さらに、市役所担当者からも「災害時には共助(住民同士の助け合い)が不可欠」という話がありました。公的支援(公助)には限界があり、命を守るためには地域住民同士の連携が重要です。

町内会は単なる組織ではなく、日頃から顔の見える関係を築き、つながりを生み出す場です。いざという時に自分と大切な人を守るためにも、町内会への加入を促進し、地域の一員としての絆を強化する必要があります。

---

### なぜMAPなのか？

室蘭アートプロジェクト(MAP)は、アートの力で室蘭の魅力を再発見・発信し、「室蘭の新しい文化地図をつくる」ことを目指しています。

市民が室蘭の魅力を再認識するためには、①新たな視点を持つことが必要であり、その②手段としてアートが有効だと考えます。

#### ① 新たな視点について

都会で育った私たち提案者は、室蘭の環境を非常に魅力的に感じています。しかし、市民の中には、室蘭の魅力を十分に感じていない人が多いことを実感しました。

第6次室蘭市総合計画のアンケート結果でも、市民の地域への愛着が減少していることが示されています。市民が「新たな視点」を意識できれば、室蘭の魅力に気づききっかけになると考えます。

#### ② 手段としてのアートについて

全市民に都会暮らしを体験してもらうことは現実的ではありませんが、想像することは誰にでもできます。この「想像する力」を育む手段として、アートは非常に有効です。アートを通じて異なる視点や価値観に触れることで、室蘭の魅力を再発見する機会を提供できます。

---

近年、芸術鑑賞の場では「他人の考え方を理解しつつ自分の意見を述べる」対話型のプロジェクトが広がっています。私たちも「見る旅」という企画に参加し、シニア世代と高校生が一つの作品を通じて交流する場を体験しました。そこでは、バックグラウンドの違いによって多様な見方が生まれることを強く実感しました。

MAPの展示は、従来の美術館のように作品を詰め込むのではなく、空間に余裕を持たせ、作品に集中できる環境を提供します。さらに、石蔵を貸し切り、制作過程を見学できるユニークな会場もあり、訪れる人に新鮮な体験をもたらします。

こうした取り組みを通じて、室蘭の魅力に気づくことができれば、若者の流出を防ぎ、シビックプライドを醸成し、最終的には市内外から「魅力的なまち」と評価されるでしょう。

---

## なぜARTなのか？

アートは、言葉を越えたコミュニケーションにおいて極めて有効な役割を果たします。その核心は、観賞者の「想像力」を刺激し、共感を広げる力にあります。

例えば、憂いを帯びた肖像画や感情がダイレクトに表現された作品に触れるとき、観賞者は背景にある物語を自然に思考します。この過程で、作者やモデルの感情や状況を擬似的に体験する「追体験」が起こります。

こうして培われた想像力は、作品理解にとどまらず、室蘭という街に対しても新たな価値や風景を見出す力となります。

以上の理由から、MAPというアート鑑賞の場で、様々なワークショップを開催し、室蘭の魅力を再発見する機会を提供したいと考えています。

表:「わがまち」といった愛着や親しみ(第6次室蘭市総合計画)

	H27 (%)	H30 (%)
とても感じている	29.1	27.1
どちらかといえば感じている	48.6	45.9
あまり感じていない	19.0	21.0
全く感じていない	3.2	6.0
「とても感じている」+「どちらかといえば感じている」	77.7	73.0

# 実現までの流れ

## 資金調達について

現在、MAPでは入場料を徴収しておらず、運営資金は補助金や協賛金で賄われています。そのため、初期段階では同様に補助金や協賛金を活用することが妥当と考えます。

### 申請可能な補助金例

- 室蘭市まちづくり活動支援補助金  
支援額: 初年度30万円、2年目12万円
- 北海道地域づくり総合交付金  
支援額: 経費の半分以下
- 太陽財団助成事業  
支援額: 不明(経費全額の可能性あり)

ただし、補助金や協賛金に依存する方法は持続可能性が低いため、開催を重ねる中で賛同者を増やし、最終的には入場料、クラウドファンディング、ふるさと納税などを活用し、市外からも資金援助を募る仕組みを構築する必要があります。

文化庁の『メセナ活動実態調査』によると、企業のメセナ活動はCSRの一環として広がっており、平成29年時点で実施率は89%。公益社団法人企業メセナ協議会の2023年度調査でも、活動件数はコロナ禍を経ても増加傾向にあります。特に「まちづくり・地域活性化」「次世代育成・社会教育」が重視され、SDGs関連の取り組みも拡大しています。

以上のことから、MAPの規模が拡大し知名度が高まれば、市内外の企業からの支援獲得は十分可能と考えられます。

---

## 市民協力の確保

開催には市民の協力が不可欠です。

- ボランティアスタッフの募集  
主に学生を対象に、市内の高校・大学・専門学校にチラシを掲示します。実際、同時期に開催された「室蘭満点花火」では学生ボランティアが多数参加し、活動を通じて交流を楽しんでいました。MAPも同様に、学生同士のつながりを生む場となることが期待できます。
- 町内会との連携  
町内会長同士の集会でMAPを告知し、「みんなで一緒にMAPを作り上げる」という意識を共有することで、地域全体の参加を促します。
- 来場者数の増加策  
市内小学校でチラシを配布し、友達同士やママ友同士での来場を促進します。これは、齊藤が地域イベントに出展した際、家族単位よりも友達・ママ友同士の方が参加率が高かったという実体験に基づいています。